

2. 「キリシタンの里 千提寺」Country Walkと「マリア十五原義図」展

大阪府茨木市 千提寺 2006. 2. 8.



「マリア十五原義図」とそれが発見されたキリシタンの里 北攝の山郷 千提寺集落

1. キリシタンの里 「千提寺・音羽」を訪ねて Country Walk
 - 1.1. キリシタンの里 「千提寺」Country Walk
 - 1.2. キリシタンの里 「音 羽」Country Walk
 - 1.3. 北摂連山にひっそり埋まっているキリシタンの里を歩いて
2. 「マリア 十五玄義原義図」
京大総合博物館「マリア十五原義図」展 小冊子より

戦国時代 大阪府高槻のキリシタン大名 高山右近の領地であった北摂連山の山中「千提寺・音羽」集落がある。交通の便が随分よくなったとはいえ そこは今もひっそりと山に埋まって暮らすキリシタンの里である。

1919年この茨木市山間の千提寺の民家から神戸市立博物館にある有名な聖画「ザビエル像」やかなり損傷したほぼ完全な「マリア十五原義図」はじめ数々のキリシタン遺物が発見され、さらに昭和5年下音羽の民家の屋根裏から代々受け継がれたキリシタンの象徴「マリア十五原義図」などが発見された。

下音羽で発見され、京大にあったこの「マリア十五原義図」が修復され この2月京大博物館で公開されたのを機に今まで訪行く機会のなかったこのキリシタンの里「千提寺・音羽」集落を訪ねそして「マリア十五原義図」展を見してきました。

弾圧の歴史の中でひっそりと生き抜いてきたことを象徴するような北摂の山中のまたその山かげの木々に埋もれた隠れた里 歩いてみて初めて判る「キリシタンの里」でした。でも 交通の便もよくなり そこに住む住人にとっては「キリシタンの里」はもう遠い昔なのかもしれない。

深い山里ではありますが、明るい裕福な里を感じて帰りました。でも 本当に一人 ゆったりと風来坊するには素晴らしいところでした。



キリシタンの里千提寺の集落 2006.2.8.

中央 カソリック黙想の家のさらに奥に集落があり、
右手がキリシタン墓標が発見されたクルス山



また 「マリア十五原義図」は聖母子像の下にザビエルら 4 人の聖人が描かれ、そのまわり 15 の絵が配置され、受胎告知に始まるイエスとマリアの生涯が描かれている。原義は「神の教え」 キリシタンが祈りを捧げるときに掲げたと見られる。同じような聖画はイタリア旅行などで、数多く見ましたが、ちょっと違う日本的な顔立ちに親しみを覚え、ついつい引き込まれてゆく。

マリアの手に持つ花は「白バラ」ではなく「ツバキ」と考えられるなど「」17 世紀の初め日本人の手による作と見られており、国の重要文化財。

2.1. キリシタンの里 千提寺・音羽集落 Walk

1. 千提寺 Country Walk

2006.2.8. 天が降り出しそうな曇り空。 まだちょっと寒い JR 茨木駅に降り立つ。

「バスがあれば良いが、なければタクシー。場所は亀岡へ行く途中の千提寺 地図を持っているからどうにかなるやろ」といつもの風来坊。

駅前の千提寺口・忍頂寺方面のバス停にバスが停まっている。 グッドタイミングで 1 時間に一本の「忍頂寺」行のバスに乗りこむ。茨木の市街地を離れ、北摂の山裾を過ぎて 山の中に入ってゆく。市街地が随分山裾まで広がっているが、それからは山間の中のジグザク道を登ってゆく。点々と集落があるが、ここも茨木市と思うほど山間をぬけてゆく。

路線図で千提寺口のバス停をみつけてほっとする。茨木から 30 分ほどで点々と小さな集落がある広い谷筋にでて箕面から合流する「泉原」のバス停を過ぎると次が「千提寺口」。



千提寺口バス停前

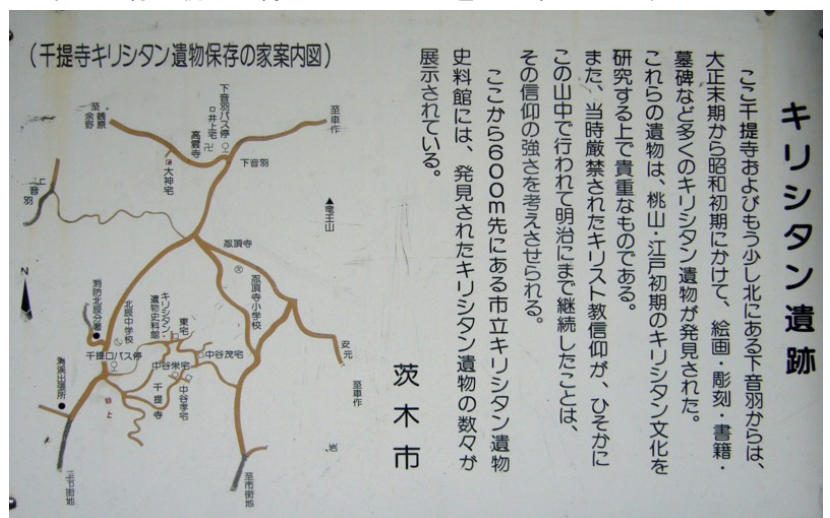


千提寺には坂を登って東へ山越えである



バスが行ってしまうとぽつんと一人取り残される。バス停の傍の山際にキリシタン遺跡の案内図があり 600m ほど行けば千提寺の集落にあるキリシタン遺物資料館と書かれていて、東に入る道路にキリシタン遺物資料館の案内板。 直ぐ近くと歩き出したのですが、これが山越えの道。

千提寺の集落は千提寺口側の枝尾根を乗越した向こう側。ぶらぶらと坂道を登り、反対側の山肌に沿って曲がりくねった道を下って集落に入る。集落といっても 小さな丘と丘の間の奥に山の斜面にへばりついた家々がぽつん ぽつんとあり、まとまった集落は見えない。本当に隠れ里の名がぴったりである。両側の山際の竹林が心地良く迎えてくれる。





キリシタンの里 千提寺の集落 2006. 2. 8.

中央奥に見えるカソリック黙想の家の前を回りこんで登ると千提寺の中心集落

山際の道をくだりきって、緩やかに山腹を回りこみながら先へ道が続くき、斜面の反対側のくぼ地には段々によく手入れされた畑が広がっている。この道が千提寺のメイン道路である。

そんな山際 丘と丘のきれ目のくぼ地へ入る入り口にキリシタン遺物資料館への案内板があり、この奥がキリシタン遺物資料館 右手の小さい丘が古いキリシタンの墓標が見つかったいるクルス山と知れる。

ここを曲がって正面奥に山をバックに大きな建物が見えるので、これが資料館と思いましたが、カソリックの黙想の家。入り口の正面に高山右近の像がありました。



カソリックの黙想の家とその入り口に立つ高山右近像 2006. 2. 8.

この黙想の家をぐるりと回りこんでさらに上へ5分ほど登ってゆくと周囲を山腹に包まれた小さな丘の上 戸数十数戸の千提寺集落があり、その中にキリシタン遺物資料館がありました。そして隣がこの千提寺がキリシタンの里と知られるきっかけになった聖画「ザビエル像」や「マリヤ十五原義図」など数々のキリシタン遺物が発見された東家だった。





クリシタンの里 千提寺 2006. 2. 8.

写真下 左:茨木市立クリシタン遺物資料館 右:数々のクリシタン遺物が発見された東家

まったく人影もなく、車も上がってこない平日の静かな昼下がりのクリシタンの里。
あいにく 火曜日でクリシタン遺物資料館も休み。資料館横に座り込んで、静かなひと時を過ごす。

風来坊なので 当たり前なのですが、この千提寺の集落を見つけるまで、本当に裏切られ派なしであった。
最後の坂を登るまで、まったく集落は山の中に隠れて見えない隠れ里
千提寺口の案内板「ここから600m先にクリシタン遺物博物館がある」というのと本当に程遠い。
車でカーナビ使って 間違わずに来れば サッと来られるのですが・・・
今日ほど「隠れ里」を意識したことなし。これは歩かないと判らない。

この集落は本当に隠れ里を意識したのか 逆に こんな隠れ里だったため300年にわたって発見されずにすんだのか・・・どちらだろうか・・・

帰って google の衛星写真や地図と照らし合わせながら調べると山は低いのですが、山また山の中。そして
そんな山中の街道筋からさらに枝尾根を乗越して分け入り もうひとつ山を回りこまないと集落に行けず、
どこからも集落は見えない。

判っていれば ちょっと歩けばいいだけで、すごさはないのですが・・・
昔は おそらく 外の人にとっては 全くきずかない里だったのだろう。
まさに隠れ里である。



切支丹の里 千提寺 2006. 2. 8.



キリシタンの里 隠れ里 千提寺 音羽の位置

千提寺の地名も当初 この集落の中にお寺があると思っていましたが、どうもお寺はなくキリシタンのカモフラージュではないかと言われている。

イエズス会独特の十字架といわれる二支十字（干）を表す「干」と聖母を象徴する「菩提樹」の「提」に山人の目を逃れるために「寺」をつけたといわれる。

先ほどの「黙想の家」のところまで戻り、左へ山の斜面に沿って クルス山へ入る。

もうほとんど人が入っていない雑木林の中 小さな小屋の中にキリシタンの墓碑がひっそり立っていました。



千提寺 通称クルス山の雑木林の中にあるキリシタン墓碑 2006. 2. 8.

2. 下音羽 Country Walk

また クルス山の山裾を東へ千提寺の本道から千提寺集落の山の東側を南北に走る街道筋に出て、忍頂寺へ向かう。

そこから もう一つのキリシタンの里 「下音羽」の集落を訪ねてから、さらに上音羽にでて、山を隔てて西の街道筋を下って千提寺口へ戻る予定で忍頂寺へ向かう。 天気も回復して 気持ちのよいハイキング。

30分足らずで忍頂寺の集落。



千提寺の東側の街道筋



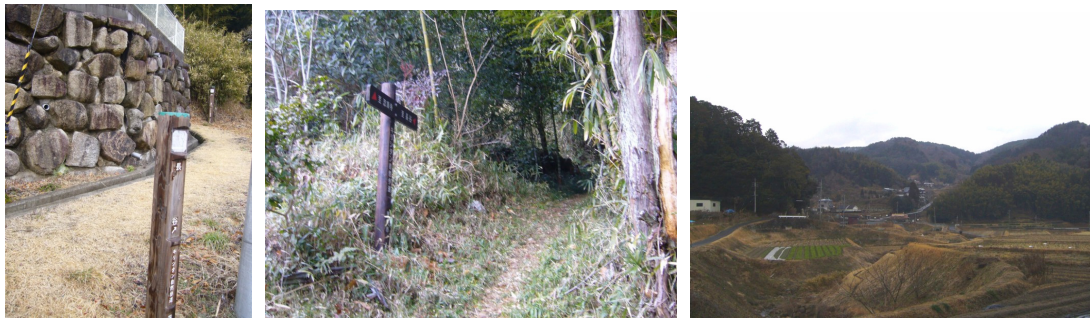
忍頂寺の門前が峠 門前の医師団を登り忍頂寺の門をくぐって竜王山への登山路がある



ここは忍頂寺の門前の集落で 千提寺口から真っ直ぐ北に登ってきたバス道と合流して、ここから山間をカーブ

しながら下音羽へ下ってさらに亀岡の峠へと登りの街道が続いている。

門前の直ぐ下から正面の尾根を越えて下音羽から長谷への旧道がキリシタン自然歩道として整備されているのが見えたので、街道筋を歩かず こちらの山道に行く。



忍頂寺から下音羽・長谷へと続くキリシタン自然歩道

15分ほどまた 山の中を歩いて、尾根を乗越すと一面段々畑となっている盆地状の広い谷筋が見え、北の山裾を忍頂寺から続いている街道筋を車が走っている。そして 正面に見える小さな集落が下音羽。尾根の斜面を南側に回りこみながら下って下音羽の集落の端に出る。



キリシタン自然歩道より 下音羽周辺

右の山の裏から回り込んできた忍頂寺からの街道筋 そして左端の森が下音羽の集落の端 段々畑をトラバースしながらこんもりした森が見える下音羽の集落の端を目指す。

ちょうど森になっているところが小さな丘になっていて、鎮守の森。そして この森の背後と西側の山の斜面との間の狭いところに集落があり、集落が奥に伸びる入り口のところに厨子入象牙掘キリスト磔刑像発見の解説板があり、土地の人に聞くと直ぐ隣の大神さんのところから発見されたという。

この細い道に入ってゆくと何軒も大神姓の家があり、代々続いてきた家なのだろう。



下音羽の集落とその入り口のところにある厨子入象牙掘キリスト磔刑像発見の解説板

この地も 千提寺ほどではないが、集落は山の斜面と鎮守の森で街道筋からは隠れた場所にあり、やっぱり隠れ里。ここでも ひっそりとキリシタンたちが暮らしてきた。

この下音羽から西尾根筋の山影の斜面にへばりつくように上音羽へ民家が点々と続いている。

今回 京大博物館で公開された「マリア十五原義図」はこの下音羽の集落の屋根裏から竹筒にしっかりしまいこまれて発見されたという。

鎮守の森のところから西へぽつぽつ民家が見え隠れする山の斜面を登って上音羽へ

石垣の立派な家のところから集落の中をジグザクの急な道を登ると交通量の多い西の街道筋に飛び出し、直ぐ横に上音羽のバス停。この街道筋は茨木・箕面から亀岡に抜ける街道筋で反対側に下ると千提寺口から泉原に戻る。



上音羽の集落と街道筋 上音羽のバス停付近

3. 北摂連山にひっそり埋まっているキリシタンの里を歩いて

バスの時間が合わないの
で、今日歩いたキリシタン
の隠れ里を思い出しながら
らぶらぶら約1時間ほど
で千提寺口を通して泉原
へ下る。結局 千提寺の山郷を中心にぐるりと回りの街道を一周したことになる。



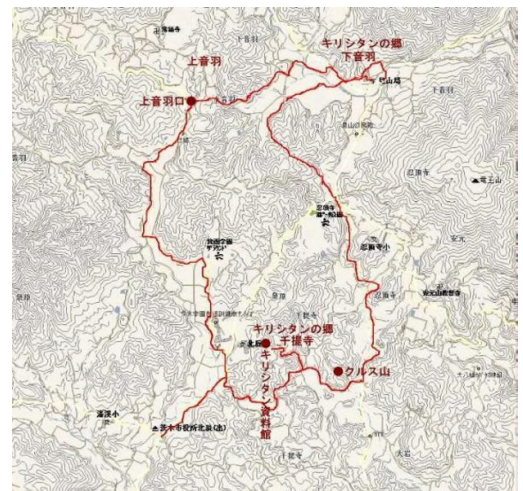
茨木からほんのバスで30分の山中であるが、「隠れ里」とは こんなところを言うのだろう。歩かなければ 本当に知らずに見過ごしてしまう 外部からは見えない場所でした。

山口県の山中 キリシタンの隠れ里長門峡・福栄村や平戸・早月島の教会を訪問しましたが、こんなにも隠れ里を意識しませんでした。

隠れキリシタンとして信仰を守り通すことの厳しさをつくづく感じると共によくもこんなにうまい場所をみつけたと一方ではさすがしさも感じました。

隠れ切支丹という暗さはまったくなく明るい谷間のミステリーWalkをやったというのが本音。

このキリシタンの里 車ではダメ。 ゆっくりと一人歩くには お勧めのフィールド。



2006. 2. 8. ぶらぶら千提寺口へ下りながら

Mutsu Nakanishi

追 記

千提寺には JR 茨木駅から阪急バスで出掛けましたが、1時間に一本しかなし。

千提寺口で知ったのですが、大阪 千里中央駅から箕面を通して千提寺口へ出る方法もあり。

こちらの方がバスが少し多そう。帰りには千里中央へ帰りました。

2.2. 「マリア 十五玄義原義図」

京大総合博物館「マリア十五原義図」展 小冊子より



「マリア十五原義図」は聖母子像の下にザビエルら4人の聖人が描かれ、そのまわり15の絵が配置され、受胎告知に始まるイエスとマリアの生涯が描かれている。

「玄義」は「神の教え」 キリシタンが祈りを捧げるときに掲げたと見られる。

マリアの手に持つ花は「白バラ」ではなく「ツバキ」と考えられるなど「」17世紀の初め日本人の手による作と見られており、国の重要文化財。

1930年 茨木市の山間 キリシタンの里 下音羽 原田家屋根の葺中 竹筒からほぼ完全な保存状態で発見され、現在京都大学蔵。



